



ことばが変わった。誰もが憧れた「長生き」がいつの間にか「高齢化」と呼ばれ、長寿は後期高齢者、社会問題の原因と扱われています。しかし、それでも「長生き」は人の願いであり、いつの間にか「百歳人生」という言葉も市民権を得たようです。それなら、粗大ごみも扱いようでこんなにも格好よく、役に立つのか・・・と言われるモデルを目指してみたらどうでしょう。

そこで、二つの提案です。第一は「面倒くさい」と言わない。105歳まで生涯現役を貫いた日野原重明ドクターは上手な年の取り方は「新しいことを始める」ことだと言って、100歳を迎えてパワーポイントを使って講演をしておられました。

口に出かける「面倒くさい」を飲み込んで新しいことにチャレンジしていただくことです。第二は「おせっかいをしましょう」朝日新聞の一面の見出しに「65歳以上『孤独死』年6.8万人」とありました。「大丈夫？」の一声を、あんまり相手のことを考えすぎず、「良い」と思えば掛け合えば、この数字は変わるに違いありません。

「後期高齢者」という言葉が、やがて、若者の理想の人生目標になる日を生み出すために、私たちは、面倒くさい、おせっかいを始めて見ようと、在留外国人に日本語を教えるボランティアを夫婦で始めたばかりです。あなたも何かお始めになりませんか。

「若い男の栄誉は彼らの力。老人の輝きはその白髪。」箴言 20:29